

# Interview



**略歴**

- 1962年 広島生まれ
- 1986年 東京医科歯科大学歯学部 卒業 (歯学博士)
- 1991年 東京医科歯科大学大学院 修了 (歯学博士)
- 1991年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 医員
- 1994年 東京医科歯科大学歯学部 助手 (歯科補綴学第一講座)
- 1996-1997年 文部省在外研究員米国立UCLA
- 2001年 東京医科歯科大学大学院医学総合研究所 助手
- 2002年 東京医科歯科大学大学院医学総合研究所 講師
- 2007年 昭和大学歯学部歯科補綴学講座 教授 (現職)
- 2013年 昭和大学歯学部副院長
- 2019年 昭和大学歯学部病院長、昭和大学執行役員に就任し、現在に至る

**所属**

- 公益社団法人 日本補綴歯科学会 理事長
- 一般社団法人 日本歯学系学会協議会 常任理事
- 一般社団法人 日本デンタル歯科学会
- 日本顎口腔機能学会
- 一般社団法人 日本顎関節学会
- 国際補綴歯科学会 (ICP) 理事
- 日本学術会議 連携会員

公益社団法人 日本補綴歯科学会 理事長  
昭和大学歯科病院長  
**馬場 一美氏**  
(ばば・かずよし)

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

インタビューのご感想・ご意見は、info@tokyo-sk.comへお寄せください。過去のインタビューは当協会HPからご覧いただけます。

保険診療の請求事務、返戻・減点、指導、経営・税務、共済制度などについてのご相談はお気軽に協会まで。☎03(3205)2999 FAX03(3209)9918

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

## 「認知」と「口腔」の関係 医科領域との連携が必要

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

## 「認知」と「口腔」の関係 医科領域との連携が必要

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

## 「認知」と「口腔」の関係 医科領域との連携が必要

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

## 歯科医療の可能性を探る

日本補綴歯科学会と日本老年精神医学会は9月3日、共同で「認知機能と口腔機能に関する医科歯科連携プロジェクト」を発足し、同日に調印式とプレスセミナーが行われた。今回は、この日本補綴歯科学会の理事長で、昭和大学歯科病院長の馬場一美氏を「紹介させていただいた」。

馬場氏によると、「このプロジェクトは「ECCO(エコ)プロジェクト」という略称で呼ばれ、「認知機能」と「口腔機能」に関する相関関係を医科歯科連携により解明し、認知症対策といった社会的問題に取り組み(き)を目的」と「認知」と「口腔」に関する臨床研究を行っている。本プロジェクトによって、超高齢社会で役割が増している補綴治療による患者の健康長寿の延伸実現に向け、共同研究を推進していくと強調する。本紙では、馬場氏に「ECCO(エコ)プロジェクト」について、「認知機能」と「口腔機能」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」について、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。



**医科歯科連携-ECCOプロジェクト**  
Medical-Dental collaboration: Exploratory research project on the Correlation between Cognitive and Oral function 代表: 佐々木 啓一

**医科(認知症専門医)**

公益社団法人 日本老年精神医学会  
Japanese Psychogeriatric Society

【倫理・研究委員会】

- 池田 学 (大阪大)
- 石川賢久 (阪大)
- 内海 久美子 (香川市立病院)
- 橋本 尚 (近畿大)
- 眞鍋雄太 (神奈川歯科大)

**歯科(補綴専門医)**

公益社団法人 日本補綴歯科学会  
Japan Prosthodontic Society

【研究企画推進委員会】

- 木本賢治 (医歯大)
- 木本亮彦 (神奈川歯科大)
- 佐々木 啓一 (東北大)
- 窪木拓男 (岡山大学)
- 上田貴之 (東京歯科大)
- 眞鍋雄太 (神奈川歯科大)
- 安部友佳 (昭和大学)
- 稲川友佳 (医歯大)

JRSDOF  
認知症と口腔機能研究会  
Japan Research Society for Dementia and Oral Function

2021年6月現在

共創

認知機能と口腔機能の相関に関するエビデンス

超高齢社会における健康長寿の延伸

日本補綴歯科学会と日本老年精神医学会「医科歯科連携-ECCO(エコ)プロジェクト」より

## 歯科にもDXの流れ 仕組みと法改正が課題

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

## 補綴治療に自負と誇りを持つ

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

## 大切なのは短期目標に向けて全力で取り組む忍耐力

「認知」と「口腔」の関係、医科領域との連携が必要。口腔の健康を維持することは健康な生活を送る上で、大きな役割を担っています。高齢になると歯を失う方が増えますが、歯を失うことは見た目の問題、食事や会話などの日常的な機能が障害を受けるなど、非常に大きな歯科領域の問題の原因となります。それだけでなく、精神面を含めた生活全体の豊かさにも損なわれます。加齢とともにいろいろな行動制限がある中で、友人と会って話をしたり、食事をするといったことなど、生活そのものができなくなることも増えてきています。つまり、補綴治療の波及効果を世の中に示すことができないと思います。その意味で、日本老年精神医学会と「認知」と「口腔」の関係について、「補綴の矜持(きょうち)」という、模型レスのフルデジタル化についてのほか、日本補綴歯科学会の目指す将来の姿について伺った。聞き手は当協会の早坂美都理事。

インタビューのご感想・ご意見は、info@tokyo-sk.comへお寄せください。過去のインタビューは当協会HPからご覧いただけます。

保険診療の請求事務、返戻・減点、指導、経営・税務、共済制度などについてのご相談はお気軽に協会まで。☎03(3205)2999 FAX03(3209)9918

ホームページアドレス <https://www.tokyo-sk.com/> e-mail [info@tokyo-sk.com](mailto:info@tokyo-sk.com)